

ペースメーカー患者における胸郭インピーダンスと心音図検査の比較による心不全評価

黒木 乃綾¹、山本 都夢¹、亀谷 良介²、富永 新平²、青山 英和²

¹あま市民病院、²あま市民病院

【目的】ペースメーカー植え込み患者の心不全評価と管理は重要である。本研究ではペースメーカー患者を対象に、胸郭インピーダンス、AMI 社製心音図検査の心負荷係数、およびNT-proBNP を多角的に評価し、心不全の病態把握における有用性を検討した。【方法】2025年5月から7月における、あま市民病院ペースメーカー外来の患者6名を対象とした。定期フォローアップ時にペースメーカー由来の胸郭インピーダンスを測定。加えて、AMI 社製心音図検査による心負荷係数と、採血によるNT-proBNP 値を測定した。【結果】胸郭インピーダンスは平均 $65 \pm 12.9 \Omega$ 、NT-proBNP は平均 $1171.51 \pm 954.7 \text{pg/mL}$ であった。両者の相関係数は-0.849と強い負の相関を認めた。心負荷係数の判定はA1が3名、A2が1名、Cが1名、Dが1名であった。心負荷係数と胸郭インピーダンス値には負の相関傾向があり、心負荷係数とNT-proBNP 値には正の相関傾向を認めた。【結論】胸郭インピーダンス、心負荷係数、およびNT-proBNP は、ペースメーカー植え込み患者の心不全評価に有用な指標である。これらの多角的指標の組み合わせは、心不全の早期診断に貢献しうると考える。